

### 3. 開発の結果

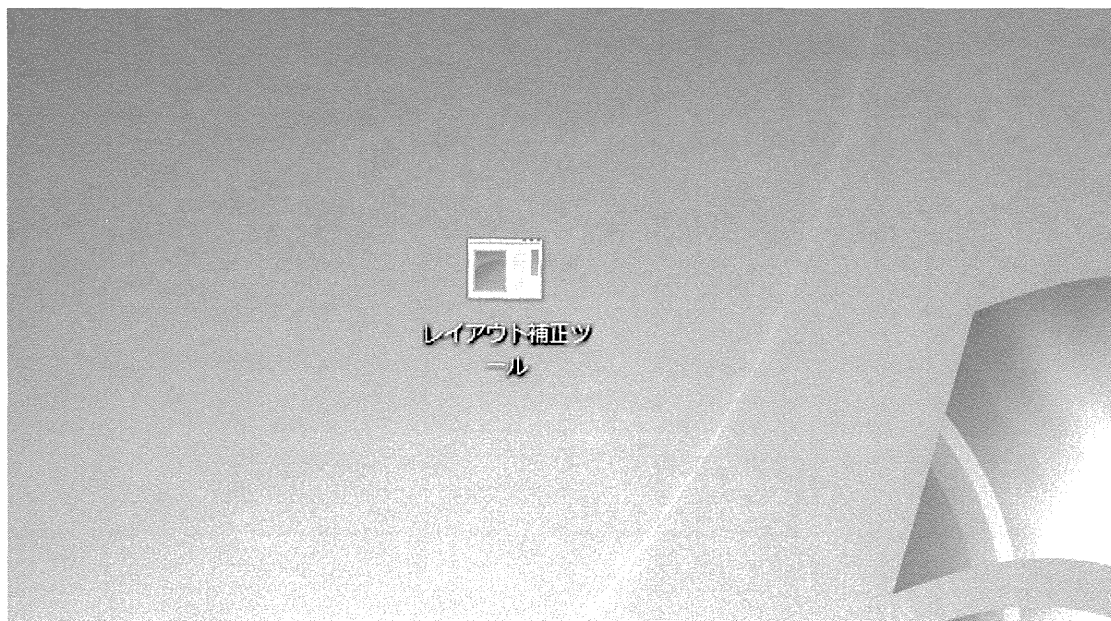
#### I) 日常生活圏域ニーズ調査データ分析用レイアウト補正ツール

##### i) ツールの起動

適切なアーカイバーを用いて、日常生活圏域ニーズ調査データ分析用レイアウト補正ツールを解凍する。このシステムは、Windows のシステムに対する依存度が小さいので、任意のフォルダに解凍することが可能である(アーカイバーとして zip が使用されているので、Windows7 以降であれば右クリックで解凍可能である)。

ここでは、仮にデスクトップに解凍した場合を示しておく。レイアウト補正ツールは、.NET というシステムで構築されているが、ユーザーはそのことを意識する必要はない。ただし、windows のバージョンは vista 以降を想定している。図 4-1 は、デスクトップ上に解凍した場合の状況を示しているが、適当なフォルダ(例えば、ニーズ調査分析)を作成して作業しても良い。非常に弾力性に富んだシステムと言える。

図 4-1 レイアウト補正ツールの解凍



ツールを起動すると、図 4-2 のような画面が出現する。最も重要なのが標準項目名であり、厚労省を準拠した標準フォーマットの項目名が入力されている。標準項目名と実際のニーズ調査の入力ファイルと比較し、実査のデータを標準フォーマット形式に整えるのが、このツールの機能である。画面の構成は、デフォルト設定である、標準日本語項目名、標準項目名(後述される、日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツールで使用される)、標準値(入力値の範囲を示す)、整合性(入力値が値の範囲にない場合に色が変わる)というプログラム固有の部分と、入力日本語項目(デフォルトの標準日本語項目名に該当し、入力されるファイルのデータ項目名)と、補正内容(補正の履歴確認)、そ

図 4-2 日常生活圏域ニーズ調査データ分析用レイアウト補正ツール起動画面

レイアウト補正ツール

入力ファイル:

	削除	標準日本語項目名	標準項目名	標準値	整合性	入力日本語項目名	補正	補正内容	1行 補正前	補正後
▶ 1	<input type="checkbox"/>		SEQ				<input type="button" value="値補正"/>			
2	<input type="checkbox"/>		年齢				<input type="button" value="値補正"/>			
3	<input type="checkbox"/>		性別	1-2			<input type="button" value="値補正"/>			
4	<input type="checkbox"/>		圏域				<input type="button" value="値補正"/>			
5	<input type="checkbox"/>		中学校区分				<input type="button" value="値補正"/>			
6	<input type="checkbox"/>		小学校区分				<input type="button" value="値補正"/>			
7	<input type="checkbox"/>	家族構成	問1:Q1	1-3			<input type="button" value="値補正"/>			
8	<input type="checkbox"/>	人数	問1:Q1-1人数				<input type="button" value="値補正"/>			
9	<input type="checkbox"/>	同居者属性-配偶者(夫・妻)	問1:Q1-1同居人1	0-1			<input type="button" value="値補正"/>			
10	<input type="checkbox"/>	同居者属性-息子	問1:Q1-1同居人2	0-1			<input type="button" value="値補正"/>			
11	<input type="checkbox"/>	同居者属性-娘	問1:Q1-1同居人3	0-1			<input type="button" value="値補正"/>			
12	<input type="checkbox"/>	同居者属性-子の配偶者	問1:Q1-1同居人4	0-1			<input type="button" value="値補正"/>			
13	<input type="checkbox"/>	同居者属性-孫	問1:Q1-1同居人5	0-1			<input type="button" value="値補正"/>			

図 4-3 日常生活圏域ニーズ調査データ分析用レイアウト補正ツールファイル入力



して、データの例として 15 の代表的なデータを例示する項目がある。補正前は文字通り補正前のデータ、補正後は補正後のデータが表示される。

入力するファイルは、画面の上方にある入力ファイル参照ボタンを押すと、ファイルを探すエクスプローラーモードになる（図 4-3）。エクスプローラーモードは、通常のウィンドウの操作に慣れている者は容易に取り扱えるだろう。また、市町村によっては独自の調

査項目を設定している場合もあるが、それらはすべて 238 行目以下に追加項目として表示されている（図 4-4）。この追加項目は削除ができるが、標準フォーマット上の標準項目名は削除ができない。標準フォーマット上の標準項目名は不変で、仮に、入力されたファイルの中に該当する項目がなかった場合、最終的に出力される項目の値は欠損値になる。

図 4-4 補正ファイル入力後画面

削除	標準日本語項目名	標準項目名	標準値	整合性	入力日本語項目名	補正	補正内容	1 行	2 行	3 行	4 行	5 行	6 行	補正後	補
<input type="checkbox"/>	在宅サービスの利用	問8: Q6-15			在宅サービスの利用15	値補正	複数選択補正							0	
<input type="checkbox"/>	飲酒習慣	問8: Q6	1-4		飲酒習慣問84	値補正		1	2	3	4				
<input type="checkbox"/>	喫煙習慣	問8: Q7	1-4		喫煙習慣問85	値補正		1	2	3	4				
<input type="checkbox"/>	うつ充実感がない	問8: Q8	1-2		うつ充実感がない問86 基	値補正		1	2						
<input type="checkbox"/>	うつ楽しみめない	問8: Q9	1-2		うつ楽しみめない問87 基	値補正		1	2						
<input type="checkbox"/>	うつ億劫である	問8: Q10	1-2		うつ億劫である問88 基	値補正		1	2						
<input type="checkbox"/>	うつ無用感	問8: Q11	1-2		うつ無用感問89 基	値補正		1	2						
<input type="checkbox"/>	うつ疲労感	問8: Q12	1-2		うつ疲労感問90 基	値補正		1	2						
<input type="checkbox"/>				追加項目	追加1被保険者番号	値補正									
<input type="checkbox"/>				追加項目	追加4要介護度	値補正	0	要	要	要	要				
<input type="checkbox"/>				追加項目	追加6自治会CD	値補正									
<input type="checkbox"/>				追加項目	追加7地区CD	値補正	1	2	3	4	5	6			7
<input type="checkbox"/>				追加項目	追加7追加7受付日	値補正	2..	2..	2..	2..	2..				260
<input type="checkbox"/>				追加項目	追加7追加7個人C	値補正									
<input type="checkbox"/>				追加項目	ここ半年で出かけた場所商店や...	値補正	0	1							
<input type="checkbox"/>				追加項目	ここ半年で出かけた場所スーパー...	値補正	0	2							
<input type="checkbox"/>				追加項目	ここ半年で出かけた場所コンビニエ...	値補正	0	3							
<input type="checkbox"/>				追加項目	ここ半年で出かけた場所パート...	値補正	0	4							
<input type="checkbox"/>				追加項目	ここ半年で出かけた場所飲食店く...	値補正	0	5							
<input type="checkbox"/>				追加項目	ここ半年で出かけた場所理髪店...	値補正	0	6							

ii)変更がない場合

もし、何ら変更すべき点が無い場合、図 4-6 のような表示になるデフォルトの標準日本語項目名と入力日本語名が、ほぼ一致していることが見て取れる。その後、標準値（入力の数値の範囲）と右側の行の数値、そして調査票を見比べての確認は必要であるが、確認が取れば、その項目の作業は済んだことになる。ただし、図 4-5 で見たように、デフォルトの標準日本語項目名と入力日本語名が微妙に異なる場合がある。図 4-5 で言えば、項目名の後ろに設問番号がくっついてしまっている場合である。

図 4-5 ファイル入力後画面（拡大1）

標準日本語項目名	標準項目名	標準値	整合性	入力日本語項目名	補正	補正内容	1 行	2 行	3 行	4 行	5 行	6 行
介護・介助者の年齢	問1: Q2-3	1-4		介護・介助者の年齢問2-3	値補正		1	2	3	4		
年金種別	問1: Q3	1-6		年金種別問3	値補正		1	2	3	4	5	6
経済状況	問1: Q4	1-4		経済状況問4	値補正		2	3	4			

これに対応するため、レイアウト補正ツールでは入力ファイルからは標準日本語項目名に該当する入力日本語項目名を、一部“あいまい”検索を用いて探す。このデータの場合、

図 4-6 ファイル入力後画面（拡大2）

標準日本語項目名	標準項目名	標準値	整合性	入力日本語項目名
家族構成	問1:Q1	1-3		追加7家族構成

というように、入力日本語項目名内の“家族構成”という部分と、標準日本語項目名の家族構成という単語で一致したと判断している。なお、図 4-4 補正ファイル入力後画面の赤い部分は後述される。

### iii) 項目の削除

上述したように、追加項目は削除ができるが標準フォーマット上の標準項目名は削除ができない。ここでは、追加項目に削除について説明する。画面の下方左には、追加項目を削除できる（標準項目は削除出来ない）。削除欄にしるしを付けて、列削除ボタンを押せば、項目の削除が可能になっている。

図 4-7 項目削除

356	<input checked="" type="checkbox"/>			追加項目	うつ_疲労感人生の最期(看取り)をどこ...
357	<input checked="" type="checkbox"/>			追加項目	うつ_疲労感自分の終末期の希望(治...
358	<input type="checkbox"/>			追加項目	うつ_疲労感保険料と介護保険サービスの...

図 4-7 の例だと、356 と 357 行の追加項目が削除されたことになる。なお、標準フォーマットの構造の概略は、表 1 に示している。

表 2 標準フォーマットのデータ定義

項目	値
ファイルの拡張子	「. csv」
文字コード	SJIS
改行コード	CRLF
値間の区切り文字	「,」(半角カンマ)
項目名のレコード	あり(第1行)

- すべての回答値は解釈されるべき属性に関わらず一対の”(ダブルクォーテーション)で囲われていること。
- 項目名、回答値に”(ダブルクォーテーション)が含まれないこと。

- ・ 各回答レコード間には上記改行コード(CRLF)で区切られていること。
- ・ 項目名内、回答値内での改行文字は(セル内改行と同様に)LF であること。
- ・ 最終レコードは末尾に改行(CRLF)を伴い、その改行に続けて直ちにファイル終端(EOF)が現れること。

#### iv) 入力日本語項目の間違い処理

単純に、入力日本語項目が標準フォーマットに合っていない場合はどうすれば良いのか。例えば住居種別という標準フォーマットの項目名が、居住種別と間違っって入力されていたとしよう。粗の場合、住居種別という項目が、読み込んだデータにはないという表示である(標準日本語項目名に住居種別があつて、入力日本語項目名が空欄の場合)。

図 4-8 住居種別データが存在しないという表示

標準日本語項目名	標準項目名	標準値	整合性	入力日本語項目名
住居種別	問1:Q5	1-2		

しかし、画面を下の方にスクロールしていくと、追加項目として

図 4-9 間違った項目名の表示

整合性	入力日本語項目名	補正	補正内容	1行 補正前	補正後	2行 補正前
追加項目	居住類別	値補正		1	2	

という表示があることが分かるようになっている。この場合、居住類別 → 住居種別と入力日本語項目の欄に変更すれば良い。

#### v) 値補正が必要な場合処理

日常生活圏域ニーズ調査の市町村による改変は、回答項目の数に及ぶ場合もある。例えば、標準フォーマットでは回答項目が2つなのに、3つの回答項目が存在する場合がある。図 4-10 にこのような場合が日常生活圏域ニーズ調査データ分析用レイアウト補正ツール上でどうなるかを示した。

図 4-10 値の補正

家事全般	問6:Q17	1-2	値補正必要	家事全般	値補正	1	2	3
------	--------	-----	-------	------	-----	---	---	---

これは、厚労省のでは、

家事全般ができていますか 1. できている 2. できていない

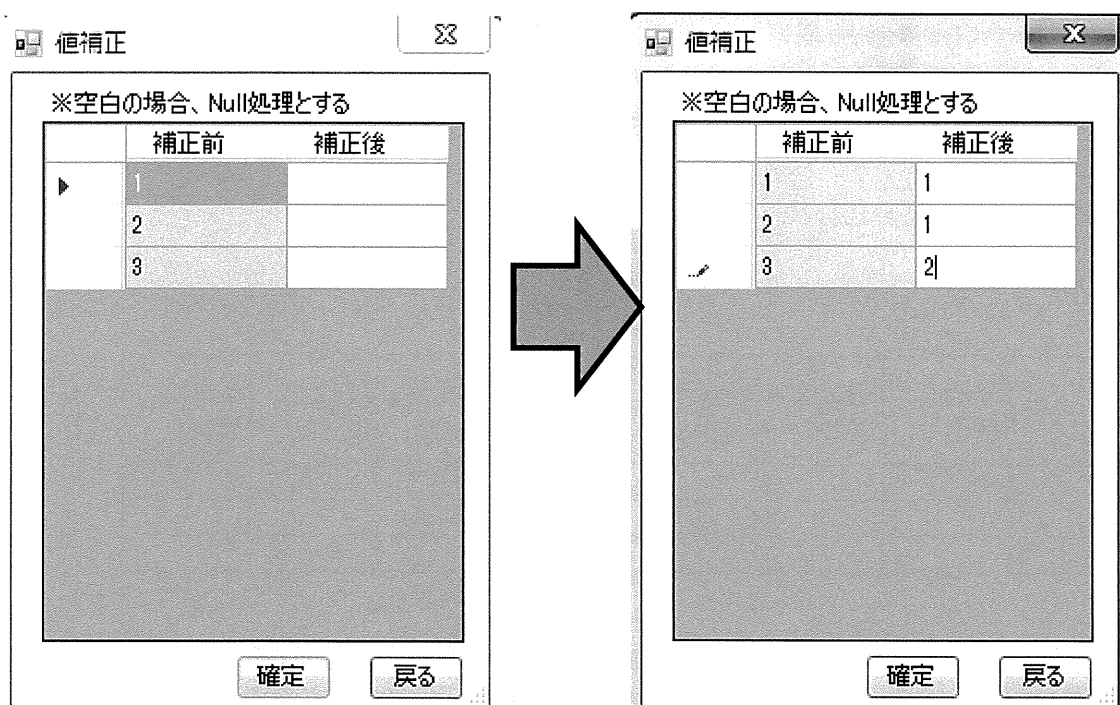
と尋ねているのに対して、この市町村では、

家事全般ができていますか 1. できている 2. 一部介助があればできる 3. できていない

と回答を一つ増やしている場合がある。この場合、一部介助があればできる を できている として取り扱う場合と、選択肢の追加として考える場合がある（基本は后者であるが、この方法は分析支援ツールのところで後述される）。

仮に前者を取るとした場合、まず、値補正ボタンを押す。すると、図 4-11 の様なポップアップウィンドウが表示される。ここに、新しいルールを記述して、確定ボタンを押せば値の変更がなされる。

図 4-11 値補正の方法



#### vi) 複数回答処理

日常生活圏域ニーズ調査データ分析用レイアウト補正ツールの開発で、もっとも困難なのが複数回答（マルチアンサー）の処理である。標準フォーマットには同居家族が誰である

かという問いを訪ねており、回答欄には 1. 配偶者（夫・妻）、2. 息子、3. 娘、4. 子の配偶者、5. 孫、6. 兄弟・姉妹、7. その他という 7 種類を、該当するもの全てにフラグ（1）を立ててデータ化するというものである。

表 3 標準フォーマット抜粋

	性別	配偶者 (夫・妻)	息子	娘	子の配 偶者	孫	兄弟・姉 妹	その他
A	1	1	1	0	0	0	0	0
B	2	1	0	1	0	1	0	0
C	2	1	0	0	0	0	0	0

表 3 に示したように、A さん（性別=1 だから男性）は妻と息子と暮らしていること、B さんは夫と娘と孫と暮らしていること、C さんは夫との二人暮らしであることが分かる。自治体によっては、標準フォーマットと大きく異なる入力規則を設けている場合が多い。ただし、自治体特有の入力規則と言っても、無数にあるわけではなく。概ね、次の 3 種類に分けられる。

表 4-1 一つのセルに回答列の番号と入力列の数値が一致して入力されている場合

	性別	配偶者属性
A	1	1,2,0,0,0,0,0
B	2	1,0,3,0,5,0,0
C	2	1,0,0,0,0,0,0

表 4-2 1 列目のセルに「1」、2 列目のセルに「3」と入っている場合

	性別	配偶者 属性1	配偶者 属性2	配偶者 属性3	配偶者 属性4	配偶者 属性5	配偶者 属性6	配偶者 属性7
A	0	1	2					
B	1	1	3	5				
C	1	1						

表 4-3 2) の系として、一列に左詰で入力されている場合（区切りスペースの場合あり）

	性別	配偶者属性
A	0	1,2
B	1	1,3,5
C	1	1

（区切りがスペースの場合も勘定に入れると、5 種類になる）

結果は図 4-11 に表示した。以上のルールを補正ツールではアルゴリズムに入れているため、基本的に自動で補正を実施してくれる。作業者は、画面を見ての確認作業を行えばよい。この例の場合、コンピューター上の順番は、1 1,2 1,3,5 なので C さん、A さん、B さんと並ぶことには注意が必要であるが、補正ツールでは規則を記述することが大事なので、データの並び順位にはこだわらない。

図 4-12 処理結果

同居者属性-配偶者(夫・妻)	f	同居者属性1	f	1	1,2	1	1,3,5	1
同居者属性-息子	f	同居者属性2	f	0		1		0
同居者属性-娘	f	同居者属性3	f	0		0		1
同居者属性-子の配偶者	f	同居者属性4	f	0		0		0
同居者属性-孫	f	同居者属性5	f	0		0		1
同居者属性-兄弟・姉妹	f	同居者属性6	f	0		0		0
同居者属性-その他	f	同居者属性7	f	0		0		0

C さんの同居者データには、1 という元データに対して、同居人 1 (配偶者) のみに 1 がたっているので正しく変換されたことになる。

表 5-1 C さんの同居データ (視認性から縦表示にしている)

同居者属性1	1
同居者属性2	0
同居者属性3	0
同居者属性4	0
同居者属性5	0
同居者属性6	0
同居者属性7	0

次に A さんであるが、配偶者と息子と同居してるので、1, 2 というデータが、

表 5-2 A さんの同居データ (視認性から縦表示にしている)

同居者属性1	1
同居者属性2	1
同居者属性3	0
同居者属性4	0
同居者属性5	0
同居者属性6	0
同居者属性7	0



となって正しく変換されたことになる。

#### vii) ファイルの出力

以上のような作業を繰り返し、最終的な確認が出来たならばファイルを出力する。出力は画面の右下方にあるボタンを押せばよい。ボタンには二つの種類があって、確認用 CSV 出力と分析用 CSV 出力がある。

分析用 CSV 出力は、日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツールで使用するファイルタイプである。このボタンを押すと、図 4-14 の分析用 CSV ファイル出力確認 がポップアップされ、OK を押すと図 4-14 分析用 CSV ファイル出力用エクスプローラーモードが出てくる。

図 4-13 ファイル出力ボタンと

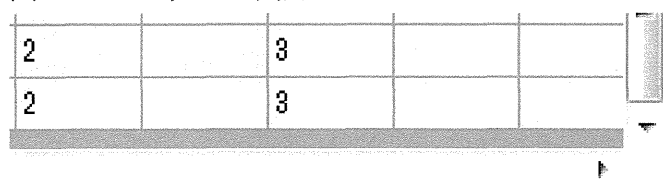
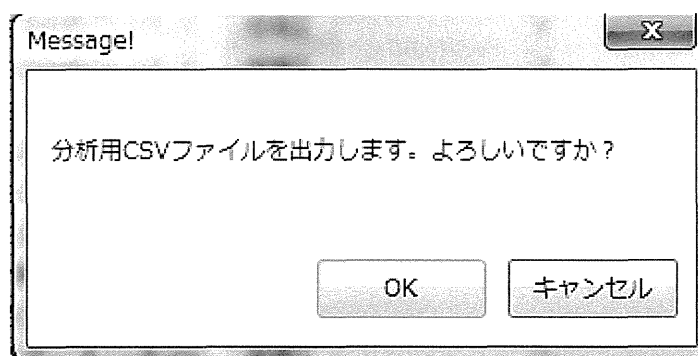
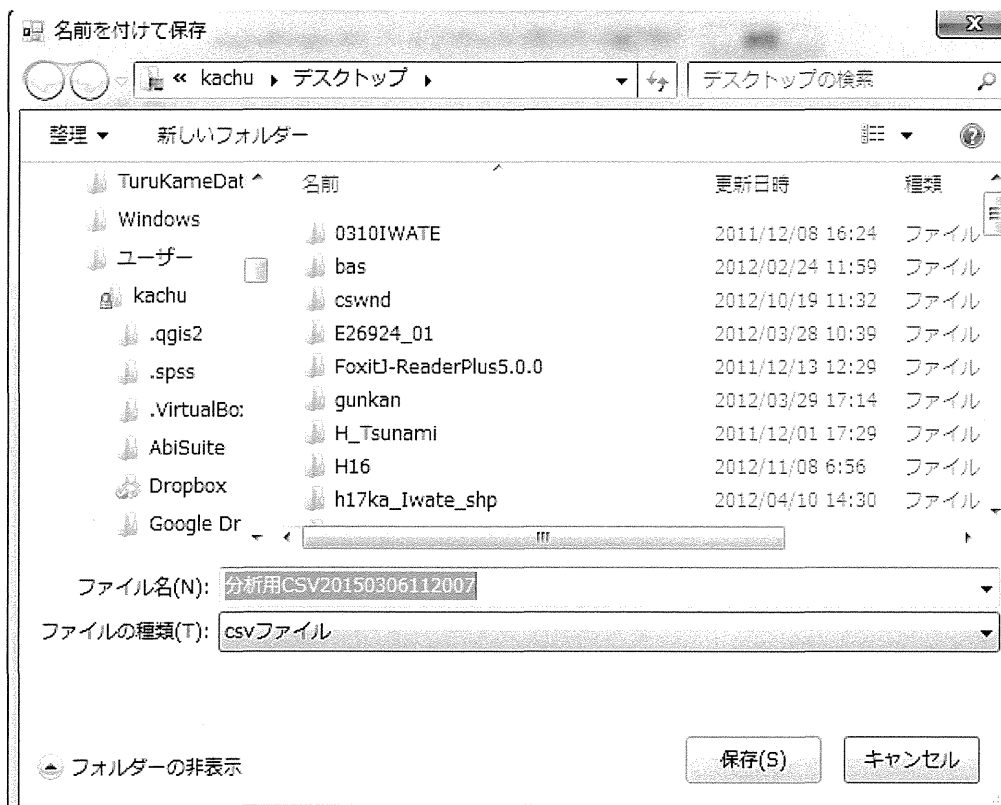


図 4-14 分析用 CSV ファイル出力確認



出力ファイルは好みにカスタマイズできるが、日付と時間でファイル名は構成されるので、これを用いた方が便利であろう。こうして、適切なフォルダを選択し、保存ボタンを押せば、日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツールで使用できるファイルが完成する。なお、確認用 CSV 出力も同様な方法で出力可能であるが、分析用との差異は視認性を確保するために、標準項目名の上に標準日本語項目名も表示している。

図 4-14 分析用 CSV ファイル出力用エクスプローラーモード



## II) 日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツール

まず、日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツール.ZIP という名前で配布されるファイルを解凍する（任意のフォルダで良いが、説明上は、ドキュメントフォルダに解凍しているものとしている）。

### i) 基本的な使用法

日常生活圏域ニーズ調査データ分析用レイアウト補正ツールで作成された標準フォーマットのデータを取り込んで、データ分析を実施するのが日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツールである。日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツールは Excel (Ver2.007-2010) の VBA マクロで構築されているので、ホーム画面と呼ばれるシートを基準に動作する。ホーム画面を表示すると クロス集計表の表示設定 という表示が現れる。

この表示は、分析結果表の見出しの視認性を上げるために使われる。日常生活圏域ニーズ調査では、市町村の実情に合わせるため、圏域を3つのカテゴリーに分けている（いわゆる、日常生活圏域、中学校区、小学校区）。例えば、滋賀県守山市には5つの日常生活圏域（1. 守山、2. 吉身、3. 小津、4. 玉津、5. 河西）と4つの中学校区（1. 南中、2. 守中、3. 北中、4. 明中）がある。

表 6-1 日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツールのホーム画面 1

## 1. クロス集計表の表示設定

### 1.1 圏域名、中学校区分、小学校区分のクロス集計表への表示名称の設定

データファイルの圏域名、中学校区分、小学校区分について、表示設定を行ってください。

- ・データがコード（数字等）で入っていて、これを名称でクロス集計表に表示させたい場合
- ・クロス集計表に表示される順序を定めたい場合

は、次のリンクをクリックして設定を変更してください。

（設定を変更しない場合は、データファイルへの入力値そのものが初出順にクロス集計表へ表示されます。）

[クロス集計表への表示名称の設定（圏域名）](#)

[クロス集計表への表示名称の設定（中学校区分）](#)

[クロス集計表への表示名称の設定（小学校区分）](#)

### 1.2 設問追加・選択肢変更に対するクロス集計表への表示名称の設定

厚生労働省の日常生活圏域ニーズ調査のレイアウトから変更した場合は以下の作業を進めてください。

※ 新たな設問を追加した場合は、次のリンクをクリックして設定を追加してください。

[クロス集計表への表示名称の設定（設問追加）](#)

※ 既存の設問に対して、選択肢を変更した場合は、次のリンクをクリックして設定を変更してください。

[クロス集計表への表示名称の設定（選択肢変更）](#)

厚生労働省の日常生活圏域ニーズ調査のレイアウトから変更していない場合は

「2. データ取込及びスコア算出後のファイル作成」にお進みください。

通常、データ入力の際には簡素化のために、日常生活圏域は 1, 2, 3, …5 というように入力されるが、このツールでは視認性を確保するために日常生活圏域名を入力できるようにしてある。具体的には、1 を守山、2 を吉身、3 を小津、4 を玉津、5 を河西というように圏域名に変更できる。方法は、

- 1.1 クロス集計表の表示設定のクロス集計表への表示名称の設定（圏域名）を選択
- データファイルの入力値の欄に、上の例に従えば、1, 2, 3, 4, 5 を入力する
- クロス表表示名の欄に、上の例に従えば、守山、吉身、小津、玉津、河西を入力する
- 変更確定を押す
- “ホーム画面に戻る”を押す
- 分析を継続する

である（表 6-2-1）。

同様に、中学校区を表示したい場合の方法は、

- 1.1 クロス集計表の表示設定のクロス集計表への表示名称の設定（中学校区分）を選択
- データファイルの入力値の欄に、上の例に従えば、1, 2, 3, 4 を入力する
- クロス表表示名の欄に、上の例に従えば、南中、守中、北中、明中を入力する
- 変更確定を押す
- “ホーム画面に戻る”を押す
- 分析を継続する

である (表 6-2-2)。

表 6-2-1 日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツールの表示名称の設定画面

## 選択肢を追加・変更した場合

[ホーム画面に戻る](#)

下記に沿ってクロス集計表の既存表示対象項目の選択肢を追加・変更してください。

1. 編集する項目の設問番号または表示項目名を選択してください。

設問番号 | 表示項目名  
圏域 | 圏域

2. データファイルの入力値とクロス表表示名を所望の内容に書き換え、「変更確定」ボタンを押してください。

<編集要領>

- ・追加: 「選択肢追加」を押して選択肢の行を追加してください。
- ・変更: データファイルの入力値やクロス表表示名を適宜書き換えてください。
- ・削除: データファイルの入力値とクロス表表示名を消去して(空欄にして)ください。

※下記の表に記載した順にクロス集計表へ表示されます。

(編集対象の項目)

設問番号	表示項目名	データファイルの入力値	クロス表表示名
圏域	圏域	1	守山
		2	吉身
		3	小津
		4	玉津
		5	河西
			不明・無回答

[選択肢追加](#)

[変更確定](#)

[この項目を削除](#)

表 6-2-2 日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツールの表示名称の設定画面

## 選択肢を追加・変更した場合

[ホーム画面に戻る](#)

下記に沿ってクロス集計表の既存表示対象項目の選択肢を追加・変更してください。

1. 編集する項目の設問番号または表示項目名を選択してください。

設問番号 | 表示項目名  
中学校区分 | 中学校区分

2. データファイルの入力値とクロス表表示名を所望の内容に書き換え、「変更確定」ボタンを押してください。

<編集要領>

- ・追加: 「選択肢追加」を押して選択肢の行を追加してください。
- ・変更: データファイルの入力値やクロス表表示名を適宜書き換えてください。
- ・削除: データファイルの入力値とクロス表表示名を消去して(空欄にして)ください。

※下記の表に記載した順にクロス集計表へ表示されます。

(編集対象の項目)

設問番号	表示項目名	データファイルの入力値	クロス表表示名
中学校区分	中学校区分	1	南中
		2	守中
		3	北中
		4	明中
			不明・無回答

[選択肢追加](#)

[変更確定](#)

[この項目を削除](#)

## ※データ取込及びスコア算出後のファイル作成について

こうして、表示される日常生活圏域名や中学校名を入力した後、分析に入るのですが、ここで、スコア等の計算の必要から、データ取り込み及びスコア算出というボタンを押す必要がある。ホーム画面の30行に、データ取込及びスコア算出後のファイル作成という表示があり、32行目に①次の黄色いセルをクリックして、取込むデータファイルを指定してくださいと表示され、34行目空欄で黄色くなっている。カーソルを黄色い部分に移すと、ファイル選択の画面になる（基本は、Document フォルダーを使用する）。

C:\Users\Documents\日常生活圏域ニーズ調査\_テストデータ.csv

次にJ列49行あたりにあるのがデータ取込及びスコア算出後のファイル作成というボタンがある。これは、BMIの計算といった軽微なものから、「基本チェックリスト」（平成18年3月31日 老発第0331027号 保健事業事業実施要領の一部改正について）から二次予防対象者（今後要支援あるいは要介護状態になる可能性が高い者）を把握するためのスコアを計算したりといった作業が必要なためである（スコア計算は、二次予防事業の対象者の基準に準拠したアルゴリズム；計算方法で算出している）。この作業は、必ずクロス集計表の表示設定を終えたら実行する必要がある。

表 6-3 日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツールのホーム画面 2

## 2. データ取込及びスコア算出後のファイル作成

①次の黄色いセルをクリックして、取込むデータファイルを指定してください。

(ファイル) C:\Users\kachu\Dropbox\22\_ツール (エクセル2010用)\日常生活圏域ニーズ調査\_テストデータ.csv

②「データ取込及びスコア算出」ボタンを押してください。

※1. データファイルを取り込む際に生活機能判定に基づいたスコアを算出します。

※2. スコア計算後のデータファイルは下記へ保存されます。

C:\Users\kachu\Dropbox\22\_ツール (エクセル2010用)\スコア算出済\_日常生活圏域ニーズ調査\_テストデータ.xls

※3. 設問項目や対象者数が多い場合（例：設問項目が200項目以上、対象者数が20000人以上）は自動的にシートが分割されます。

# データ取込及びスコア算出

### ii) 選択肢を追加する場合

補正ツールの値補正が必要な場合処理で検討したように、

家事全般ができていますか 1. できている 2. できていない

→

家事全般ができていますか 1. できている 2. 一部介助があればできる 3. できていな

い

のように選択肢が増えてしまった場合、そのまま分析を続けると表 7-1 のようになってしまう。すなわち、表側には“3”とだけ表示されてしまうことになる。

表 7-1 選択肢を追加していない場合の出力

圏域	家事全般				3
	合計	できている	できていな	不明・無回	
総数	4000	3102	773	0	125
守山	776	605	150	0	21
吉身	822	627	163	0	32
小津	811	642	143	0	26
玉津	807	613	168	0	26
河西	784	615	149	0	20
不明・無回答	0	0	0	0	

これを防ぐためには、まず、ホーム画面に戻り、クロス集計表への表示名称の設定（選択肢変更）をクリックする。

表 6 日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツールのホーム画面 1（再掲）

## 1. クロス集計表の表示設定

### 1.1 圏域名、中学校区分、小学校区分のクロス集計表への表示名称の設定

データファイルの圏域名、中学校区分、小学校区分について、表示設定を行ってください。

- ・データがコード（数字等）で入っていて、これを名称でクロス集計表に表示させたい場合
- ・クロス集計表に表示される順序を定めたい場合

は、次のリンクをクリックして設定を変更してください。

（設定を変更しない場合は、データファイルへの入力値そのものが初出順にクロス集計表へ表示されます。）

[クロス集計表への表示名称の設定（圏域名）](#)

[クロス集計表への表示名称の設定（中学校区分）](#)

[クロス集計表への表示名称の設定（小学校区分）](#)

### 1.2 設問追加・選択肢変更に対するクロス集計表への表示名称の設定

厚生労働省の日常生活圏域ニーズ調査のレイアウトから変更した場合は以下の作業を進めてください。

※ 新たな設問を追加した場合は、次のリンクをクリックして設定を追加してください。

[クロス集計表への表示名称の設定（設問追加）](#)

※ 既存の設問に対して、選択肢を変更した場合は、次のリンクをクリックして設定を変更してください。

[クロス集計表への表示名称の設定（選択肢変更）](#)

厚生労働省の日常生活圏域ニーズ調査のレイアウトから変更していない場合は

「2. データ取込及びスコア算出後のファイル作成」にお進みください。

ここをクリック

クリックすると、選択肢を追加・変更した場合という表示と、設問番号、表示項目名という欄がある。表 7-2 のような画面で、設問番号の上にカーソルを持っていき下向きの矢印

にカーソルを当てると、プルダウンメニューの形式が出現する（基本的に全ての質問項目の選択肢を変更できるようになっている）。上の例だと、問 6 : Q17 の家事全般を選択することになる。

表 7-2 選択肢を追加・変更した場合

## 選択肢を追加・変更した場合

[ホーム画面に戻る](#)

下記に沿ってクロス集計表の既存表示対象項目の選択肢を追加・変更してください。

1. 編集する項目の設問番号または表示項目名を選択してください。

設問番号 | 表示項目名

クリック

[選択肢追加](#)

[変更確定](#)

[この項目を削除](#)

すると、表 7-3 のような画面が出現することになる。

表 7-3 問 6 : Q17 家事全般を選択した場合

## 選択肢を追加・変更した場合

[ホーム画面に戻る](#)

下記に沿ってクロス集計表の既存表示対象項目の選択肢を追加・変更してください。

1. 編集する項目の設問番号または表示項目名を選択してください。

設問番号 | 表示項目名

[選択肢追加](#)

[変更確定](#)

[この項目を削除](#)

表 7-3 のデータファイルの入力値はデフォルトの標準項目の値が、クロス表表示名にもデフォルトの表示名が入力されている。まず、入力値から変更する。” 選択肢を追加ボタン” を押すと、1, 2 と 0 の間に空欄が出現する。ここに 3 を入力する。そして、2 のできていないを一部介助があればできる変更する。そして、最後に 3 の欄にできていないを入力する。

表 7-4 問 6 : Q17 家事全般を選択した場合

## 選択肢を追加・変更した場合

[ホーム画面に戻る](#)

下記に沿ってクロス集計表の既存表示対象項目の選択肢を追加・変更してください。

1. 編集する項目の設問番号または表示項目名を選択してください。

設問番号	表示項目名
問6 : Q17	家事全般

2. データファイルの入力値とクロス表表示名を所望の内容に書き換え、「変更確定」ボタンを押してください。

<編集要領>

- ・追加：「選択肢追加」を押して選択肢の行を追加してください。
- ・変更：データファイルの入力値やクロス表表示名を適宜書き換えてください。
- ・削除：データファイルの入力値とクロス表表示名を消去して(空欄にして)ください。

※下記の表に記載した順にクロス集計表へ表示されます。

(編集対象の項目)

設問番号	表示項目名	データファイルの入力値	クロス表表示名
問6 : Q17	家事全般	1	できている
		2	できていない
		0	不明・無回答

[選択肢追加](#)

[変更確定](#)

[この項目を削除](#)

表 7-4 問 6 : Q17 家事全般の選択肢追加

## 選択肢を追加・変更した場合

[ホーム画面に戻る](#)

下記に沿ってクロス集計表の既存表示対象項目の選択肢を追加・変更してください。

1. 編集する項目の設問番号または表示項目名を選択してください。

設問番号	表示項目名
問6 : Q17	家事全般

2. データファイルの入力値とクロス表表示名を所望の内容に書き換え、「変更確定」ボタンを押してください。

<編集要領>

- ・追加：「選択肢追加」を押して選択肢の行を追加してください。
- ・変更：データファイルの入力値やクロス表表示名を適宜書き換えてください。
- ・削除：データファイルの入力値とクロス表表示名を消去して(空欄にして)ください。

※下記の表に記載した順にクロス集計表へ表示されます。

(編集対象の項目)

設問番号	表示項目名	データファイルの入力値	クロス表表示名
問6 : Q17	家事全般	1	できている
		2	一部介助があればできる
		3	できていない
		0	不明・無回答

[選択肢追加](#)

[変更確定](#)

[この項目を削除](#)

それから、「変更確定ボタン」を押すと、選択肢が追加される(表 7-5)。「ホーム画面に戻る」を押せば、再び表 6 に戻って分析を実施できることになる。分析方法の詳細は次に



ゆずるが、上記選択肢を変えた場合の正しい出力が、表 7-6 である。3 と表示されていたのが、できていないに変更され、また、2 は一部介助があればできるに変更されて、正しく出力されたことになる。

表 7-6 選択肢を追加した場合の出力

圏域	家事全般				
	合計	できている	一部介助があればできる	できていない	不明・無回答
総数	4000	3102	773	125	0
守山	776	605	150	21	0
吉身	822	627	163	32	0
小津	811	642	143	26	0
玉津	807	613	168	26	0
河西	784	615	149	20	0
不明・無回答	0	0	0	0	0

### iii)標準フォーマットに新しい項目を追加する場合

前後するが、標準フォーマットに新しく項目を追加することも可能である。

表 6 日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツールのホーム画面 1 (再掲)

## 1. クロス集計表の表示設定

### 1.1 圏域名、中学校区分、小学校区分のクロス集計表への表示名称の設定

データファイルの圏域名、中学校区分、小学校区分について、表示設定を行ってください。

- ・データがコード（数字等）で入っていて、これを名称でクロス集計表に表示させたい場合
- ・クロス集計表に表示される順序を定めたい場合

は、次のリンクをクリックして設定を変更してください。

（設定を変更しない場合は、データファイルへの入力値そのものが初出順にクロス集計表へ表示されます。）

[クロス集計表への表示名称の設定（圏域名）](#)

[クロス集計表への表示名称の設定（中学校区分）](#)

[クロス集計表への表示名称の設定（小学校区分）](#)

### 1.2 設問追加・選択肢変更に対するクロス集計表への表示名称の設定

厚生労働省の日常生活圏域ニーズ調査のレイアウトから変更した場合は以下の作業を進めてください。

※ 新たな設問を追加した場合は、次のリンクをクリックして設定を追加してください。

[クロス集計表への表示名称の設定（設問追加）](#)

※ 既存の設問に対して、選択肢を変更した場合は、次のリンクをクリックして設定を変更してください。

[クロス集計表への表示名称の設定（選択肢変更）](#)

厚生労働省の日常生活圏域ニーズ調査のレイアウトから変更していない場合は

ここをクリック

「2. データ取込及びスコア算出後のファイル作成」にお進みください。

日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツールのホーム画面のクロス集計表への表示

名称の設定（設問追加）；表 6 再掲をクリックすると、表 7-6 のような画面が出てくる。表 7-7 では、まず、追加する項目が単回答か、複数回答かを選択する。単純回答を追加する方法と複数回答を追加する場合の差異は、マーカーにチェックを入れるか入れないかの違いだけなので、複数回答を追加する場合を説明する。例として、

問 9 あなたが日ごろ生活する中で不安に思っていること困っていることはありますか。（あてはまるすべてに○）

1. 病気など健康状態が悪くなった時のこと
2. いざという時に頼れる人がいないこと
3. 家族の介助、介護のこと
4. 夫婦や家族、親せきの関係のこと
5. 隣近所との関係
6. 孤独死に対する不安
7. その他

を追加してみる。まず、表 7-7 の、複数回答項目のチェック欄に☑をいれる。

表 7-7 選択肢を追加する場合の画面 1

### 新たな設問を追加した場合

下記に沿ってクロス集計表への表示対象項目を追加登録してください。

1. 追加した項目の設問番号、表示項目名、回答タイプ、選択肢数を入力してください。

設問番号			
表示項目名			
回答タイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 複数回答項目		※複数回答項目の場合、オンしてください
選択肢数	1		※数値を入力 <span style="font-size: small;">← クリックで選択できないとき</span>

2. この複数回答項目に用いられる項目名（複数）と、それぞれのクロス表表示名を所望の内容に書き換え、「この項目を追加」ボタンを押してください。

(追加登録される項目)

設問番号	表示項目名	データファイルの項目名	クロス表表示名
		0-1	選択肢1

### ホーム画面に戻る

この項目を追加

次に C 列 8 行目に設問番号として問 9 : Q1 を入力する。C 列 9 行目には“日ごろ生活する中で不安に思っていること”と入力する（省略形の方が視認性は高まる）。すると、画面は表 7-8 のようになる。ここで画面の右下の”この項目を追加ボタン”を押すと、表 7-9 のような確認画面が出現し、OK を押すと、また、表 7-8 の☑が無い状態の画面に戻る。そしてホーム画面に戻って、この後は、選択肢を追加する場合と同じ作業を実施すればよい。

表 7-8 選択肢を追加する場合の画面 2

ホーム画面に戻る

### 新たな設問を追加した場合

下記に沿ってクロス集計表への表示対象項目を追加登録してください。

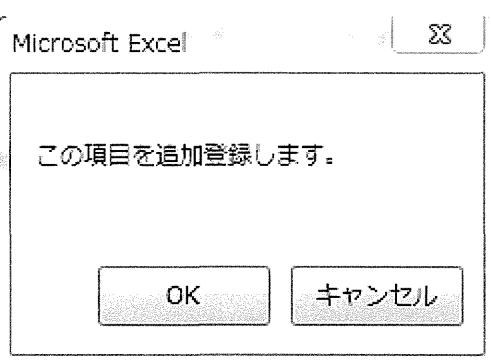
- 追加した項目の設問番号、表示項目名、回答タイプ、選択肢数を入力してください。
 

設問番号	問9: Q1		
表示項目名	日ごろ生活する中で不安に思っていること		
回答タイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 複数回答項目		※複数回答項目の場合、オンしてください
選択肢数	1		※数値を入力 <span style="font-size: small;">↳ クリックで選択できないとき</span>
- この複数回答項目に用いられる項目名(複数)と、それぞれのクロス表表示名を所望の内容に書き換え、「この項目を追加」ボタンを押してください。
 

(追加登録される項目)			
設問番号	表示項目名	データファイルの項目名	クロス表表示名
問9: Q1	日ごろ生活する中で不安	問9: Q1-1	病気など健康状態が悪くなったときのこと

この項目を追加

表 7-9 選択肢を追加する場合の確認画面



次にホーム画面に戻り、再びクロス集計表への表示名称の設定（選択肢変更）をクリックする。そして、表 7-1 のように設問番号を選択すると、プルダウンメニューの最後に問9:Q1 と表示される。

表 7-9 の画面で、選択肢の追加を行う。選択肢の追加ボタンを押すと行か空く。ここに、以下の回答項目を入力していけば良い。

2. いざという時に頼れる人がいないこと
3. 家族の介助、介護のこと
4. 夫婦や家族、親せきの関係のこと
5. 隣近所との関係
6. 孤独死に対する不安
7. その他

(この時の並び順がクロス集計表に直接利用されるので、並び順には注意する必要があります。この場合、最後の“その他”を最初に入力しておいた方が、追加がスムーズに行くものと思われる)。表 7-10 のように入力を終えたら、“変更確定ボタン”を押してホーム画面に戻る。

表 6 日常生活圏域ニーズ調査データ分析支援ツールのホーム画面 2 (再掲)

## 1. クロス集計表の表示設定

### 1.1 圏域名、中学校区分、小学校区分のクロス集計表への表示名称の設定

データファイルの圏域名、中学校区分、小学校区分について、表示設定を行ってください。

- ・データがコード(数字等)で入っていて、これを名称でクロス集計表に表示させたい場合
- ・クロス集計表に表示される順序を定めたい場合

は、次のリンクをクリックして設定を変更してください。

(設定を変更しない場合は、データファイルへの入力値そのものが初出順にクロス集計表へ表示されます。)

[クロス集計表への表示名称の設定 \(圏域名\)](#)

[クロス集計表への表示名称の設定 \(中学校区分\)](#)

[クロス集計表への表示名称の設定 \(小学校区分\)](#)

### 1.2 設問追加・選択肢変更に対するクロス集計表への表示名称の設定

厚生労働省の日常生活圏域ニーズ調査のレイアウトから変更した場合は以下の作業を進めてください。

※ 新たな設問を追加した場合は、次のリンクをクリックして設定を追加してください。

[クロス集計表への表示名称の設定 \(設問追加\)](#)

※ 既存の設問に対して、選択肢を変更した場合は、次のリンクをクリックして設定を変更してください。

[クロス集計表への表示名称の設定 \(選択肢変更\)](#)

厚生労働省の日常生活圏域ニーズ調査のレイアウトから変更していない場合は

「2. データ取込及びスコア算出後のファイル作成」にお進みください。

ここをクリック

表 7-2 選択肢を追加・変更した場合 (再掲)

## 選択肢を追加・変更した場合

[ホーム画面に戻る](#)

下記に沿ってクロス集計表の既存表示対象項目の選択肢を追加・変更してください。

1. 編集する項目の設問番号または表示項目名を選択してください。

設問番号 | 表示項目名

クリック

[選択肢追加](#)

[変更確定](#)

[この項目を削除](#)